

大阪府泉南方言の分布と動態

—『大阪府言語地図』と『大阪市～和歌山市間方言グロットグラム』を通して—

岸 江 信 介

Dialectal Change and Variation in the
Southern Area of Osaka Prefecture

Shinsuke KISHIE

Abstract

Through two different surveys, I would like to clarify the movement of dialects and variation in Osaka prefecture. I have engaged in surveying both for making dialectal maps and Glottograms for past ten years in Osaka. These results showed how dialects have changed especially in the southern area of Osaka. Dialect in the Osaka city has diffused and effected to the it's area.

1. はじめに

大阪市方言は大阪府下の市町村のみならず、近畿一円、ひいては西日本方言に対して優位にあり、関西共通語化を押し進めている中枢方言であるといつても過言ではない。例えば、断定の助動詞やの西日本各地での拡がりを見るとき、この影響力の強さを感じる。また、最近、西日本諸方言の京阪型のアクセント体系を持つ地域で進行している低起式の LLH 型（船が・箸が）から LHL 型への変化が最初に起きたのは大阪市が最も早く、ほぼ過去10年間において、この変化は近畿・四国各地の都市部に及んでいる。

関西の中核方言である大阪市方言の影響を受けて、昨今、大阪市周辺域の方言も徐々に大阪市方言に同化しつつあるというのが現状のようである。例えば、かつて摂津と河内や和泉との間に鮮やかであった方言事象にみられる対立も昨今、次第に色褪せてきており、河内や和泉で個々特色のあった地域方言も姿を消しつつある。

岸江 (1997b) では大阪府南部における方言の消長について触れるために、主に20年前に筆者が独自に行った泉州・紀北域での言語地理学的調査の結果と、ほぼこの調査から17年後に行った大阪市から和歌山市間でのグロットグラム調査の結果を比較した。泉州・紀北言語地理学的調査における話者の大半は明治30年代頃の生まれであり、かつて鮮やかであった方言の地域差が17年後の調査ではどの項目においても失われつつあることを報告した。また、岸江 (1997a) では大阪市内で大正期頃から使われ始めたという「～ではないか」に相当するヤンカ（ヤン）の大坂府の分布と京都市～和歌山市間の調査結果を示し、特に大阪府泉州地方にヤンカ・ヤンが流入しつつある情況を報告した。さらに岸江 (1997c) では近畿中央部で特色のある待遇形式のハルとヨルに関する分布と世代差を『大阪府言語地図』と『大阪市～和歌山市間方言グロットグラム』において対照し、従来、これらの形式が用いられていなかった岸和田市以南の泉州地方においても、若い世代を中心に使い出されたことを指摘した。泉州各地に1970年代以降、大型の新興住宅地が次々に形成され、大阪市方面などからこれらの地域に人口移動があったの同時に泉州地方から通勤圏や通学圏が大阪市方面に拡大したことなどがその主な要因として挙げられる。

ここではこれらの延長線として、現在、まとめつつある『大阪府言語地図』(岸江・中井・鳥谷2000年刊行予定) と『大阪市～和歌山市間グロットグラム調査』(岸江・中井 1999) との結果を比較・検討し、大阪府泉州地方の方言の分布と動態について述べることにしたい。なお、これらの調査以外にも、泉州地

方の各地でこれまでに筆者が関わった調査の中から本文で扱う調査項目と関連するもので参考とすべきものがあれば隨時取り上げてみたい。

2. 調査概要

① 『大阪府言語地図』作成のための調査

大阪府での言語地理学的調査は1990～1994年の期間に行い、話者は土地生え抜きの老年層を対象にした。調査方法は調査票に基づいた面接調査によるものである。原則として、各地点1名の話者とした。調査総地点数は大阪府下全域で最終的には約200地点となる予定であるが、今回は約120地点分のデータを提示する¹。

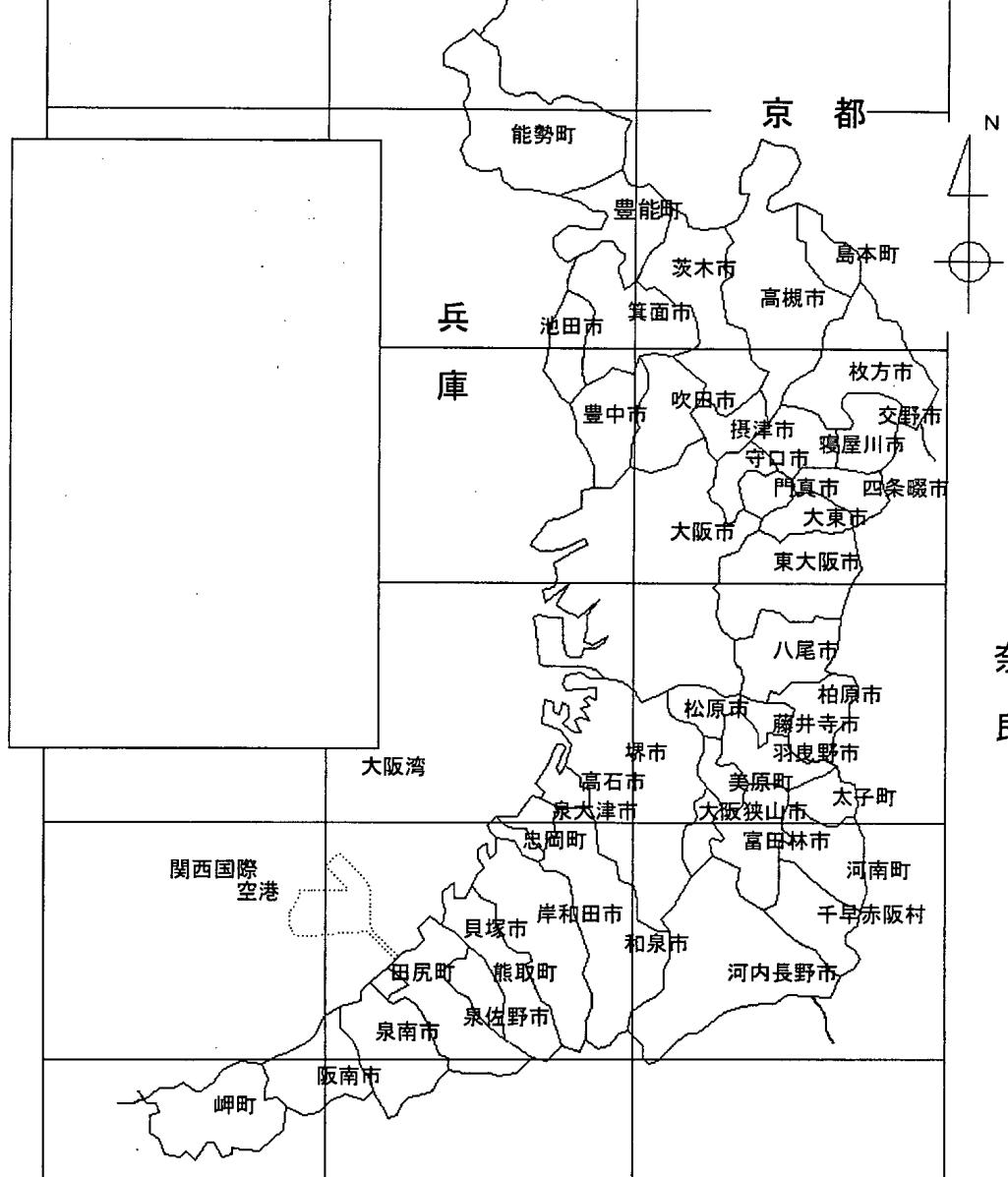
② 『大阪市～和歌山市間方言グロットグラム』調査

1993～1997年にかけてJR阪和線に沿い、大阪市から和歌山市間の26地点において、10代～70代の7名ずつ、計182名に面接調査した。この結果については既に岸江・中井（1999）として報告している。

上記のような2つの調査を並行して行うことによって、調査対象地域の言語動態がより克明に観察できると確信する。大阪府南部では上記、2調査のほか、これまでに泉南・紀北地方における言語地理学調査、泉南市岡田・貝塚市蕎原（そぶら）での世代調査、泉南市～岩出町（和歌山県）方言グロットグラム調査などをこれまで実施した。

1 1999年8月現在、200地点分全データのデータベースへの入力は完了しているが、今回は約120地点分のデータだけを扱うことにする。なお、パソコン上での言語地図への記号化の方法については田原広史氏（大阪樟蔭女子大学）のご指導を仰いだ。また、本言語地図のレイアウト及び作成は石田祐子氏（徳島大学総合科学部4年生）の協力を得た。

大阪府市町村図



0 10 20 30 40 km

3. 大阪府泉南方言の分布と動態

地域方言の変容は概して共通語化による影響が多いといわれるが、例えば、昨今、大阪府泉南方言では共通語化と同時に関西中央部方言の代表である大阪市方言の影響が顕著である。先に述べたように、大阪市方面からの人口流入や大阪市方面への通学・通勤が主な要因として考えられよう。以下ではこのような影響力をつぶさにみるため、大阪市方言の泉南方言への流入について述べてみたい。

① ネン

大阪人と1分間でも会話をすると、すぐに耳に飛び込んでくるのが文末助詞のネンである。老若男女を問わず、盛んにネンを用いる。大阪では「好きやねん大阪」という文句が一時流行したが、ここにもネンが使われている。

○中姉ちゃんが息するとその袋帯がお腹のところでキュウ、キュウ、云うて鳴るねんが

(谷崎潤一郎『細雪』)

○だいだいああいうのに引っかかるのは淋しがりやが多いねン

(田辺聖子『姥うかれ』)

○人間もスーッと人魂のシッポみたいに消えたらよろしいねん

(同 上)

前田(1977)によると、ネンは「『ね』に『ん』を添えたもので、『のや』が崩れたもの」であるとする。

どないした言うのや → どないした言うねや → どないした言うねん

大阪の老年層話者ではネンと同時にネとだけ言う場合もあるが、前田(1977)は「『ねん』といえば念入りな言い方で、『ね』とだけいえば、ぞんざいな言い方となる」と説明している。このような使い分けはすでに現在の大阪の若者世代にはなさそうである。ぞんざいな場合にもネンを用い、ネはほとんど大阪市内で聞かなくなつた。

ネンは大阪弁を代表するような方言であるが、大阪府下全域で用いられているわけではない。図1をみると、堺市あたりから大阪府南部にかけてこの形式が用いられていないのである。つまりかつての和泉国ではネンが

浸透していなかったものとみられる。

もっとも上に示した変化が生じたのはそれほど昔ではないと思われるが、金沢（1991）などの資料から、少なくとも幕末あたりにはネンが用いられていたのではないかと推定できる。ところが過去数十年の間にネンは大阪府南部に浸透し、すっかり定着した感がある。表1の結果がその流入の実態をとらえている。ネンの南下と世代との関係が明らかである。岸和田市下松以南の老年層の大半ではネンを受容しておらず、意識としてもネンを大阪市内のことばだと思っている人が多い。しかし、これらの地域の中若年層ではネンを使用し、老年層と対照的である。

岸和田以南の地域の若年層にはネンを受容した際、興味深い現象が生じた。大阪市内の若年層では「行くネン」「見るネン」に対して、「行った」「見た」のような過去にはネンは付かず、

○行ったンヤ ○見たンヤ

或いは、

○行ってン ○見てン

となることが多いが、泉州地方各地の若年層では、

○行ったネン ○見たネン

となる²。これは泉州各地で「行くネン」「見るネン」という形式を大阪市方言から受容した際にネンは現在形にも付くのだから過去形にも付くだろうという誤った類推、すなわち、ハイパーコレクション（過剰修正）の一種であると思われる。今後、ネンが府下全域に拡がるのは時間の問題であろう。

② オモロイとオモシャイ

大阪市内では「面白い」をオモロイという。もともと「おもしろい」から変化した形式であろうが、大阪市内ではこの語の使用に男女差があるようと思われる。オモロイは大阪市方言では男性語であって、女性ではオモシロイが使われることが多い。オモロイはオモシロイと比べて、やや粗野な響きがあると思われる。図2によると、オモロイは大阪市内を中心にしてほぼ全域に認められる有力な語形であるが、泉州地方にはオモシャイという泉州特有の形式がある。図2はこの形式を使うかどうかを中心に聞い

2 牟田由紀子氏（元大阪大学文学部日本学研究生）のご教示による。少なくとも泉州郡熊取町や泉佐野市の若年層のほか、岸和田市の若年層にも用いられていることが判っている。

た結果である。オモシャイは岸和田市以南の泉南各地で用いられることがこの図から明らかであるが、オモロイとオモシャイの接触地帯(岸和田市・貝塚市)にはオモショイという形式が2地点認められる。これはオモシャイが分布するところにオモロイ(或いはオモシロイ)が入り込み、オモシャイの母音[a]を[o]に変えてしまったことによるものであろう。混交の一種であるとみなすことができる。表2でもこの混交の状況を詳細にみることができる。和泉市から和歌山市にかけて、30~50歳代あたりにこの形式が認められる。これらの世代では10~20歳代の若年層がオモロイにシフトしていくのと歩調をあわせる反面、このオモロイと老年層が用いるオモシャイのどちらを使うべきか、いわば板挟み状態になり、オモショイという混交形を用いるようになったと推定できる。

今から20年ほど前に行った泉南郡熊取町の10代の話者(現在、30歳代後半に達している)にはオモシャロイという回答があった。これなどはまさに、オモシャイとオモロイ(乃至オモシロイ)の混交形であると断言できよう。

和歌山市の雑賀崎の70歳代話者からオモシライという語形の回答があつた(表2参照)。この場合はオモシロイという形式にオモシャイが影響し、[o]を[a]にえたケースであり、オモショイとは反対の結果であるといふことができる。

③ 美味しくない(まずい)

『大阪言語地図』には大阪市内を中心にして、方言が周囲分布をするものがいくつかみられる。例えば、「雨が降ればいい」という場合の「降れば」に当たる形式として、フッタラが府全域に有力であるが、フリヤ(一)が大阪市内から離れた北と南に分布する。図3の「美味しいくない」にも周囲的な分布を示す方言が認められる。モムナイがそれである。モムナイという形式は大阪市内では見られず、大阪府北部の能勢町から泉南地方にかけて、ちょうど大阪市内を取り囲むような形で分布している。大阪市内ではモミナイ乃至モモナイが優勢であり、これらの形式はモムナイからの変化によるものであるとみられる。もともとモムナイという形式は「うまくな」のウ音便形であるウモーナイがウモナイ(短呼化)となり、ウモナイはさらにウマナイへと変化した。ウモナイからウマナイへの変化は西日本各地で起きている変化³で、ウ音便形が後退し、語幹末尾の母音にシフトする現象である。

例. [u] → [a]

「高くない」 タコーナイ → タコナイ → タカナイ

「甘い」 アモーナイ → アモナイ → アマナイ

「危なくなる」 アブノーナル → アブノナル → アブナナル

[u] → [i]

「悲しくない」 カナシューナイ → カナシュナイ → カナシナイ

「嬉しくなる」 ウレシューナル → ウレシュナル → ウレシナル

[u] → [u]

「寒くない」 サムーナル → サムナル

「暑くなる」 アツーナル → アツナル

モムナイはウマナイからの変化によるものである。ウマナイの語頭の音声は厳密に言うと、[u]ではなく[m]である。すなわち、カタカナで音声表記を行えば、ンマナイ [mmanai] となる。例えば、「馬」や「梅」なども同じで、第2モーラの子音が[m]音のものは、

馬 [mma]、梅 [mme]

となるケースが多い。つまり、ウマナイからンマナイを経て、モムナイという形式に変化した理由はこのあたりに求められる。図3では大阪市内において認められなかったモムナイが表3の結果では大阪市の阿倍野や住吉にも見られる。これらの地域は大阪の中心からは少し離れているものの、かつてこの形式が市内中心部でも用いられた証となろう。表3ではモムナイが泉州方面の老年層に用いられ、モモナイが中年層で拡がっている。モモナイもモムナイ同様大阪市からの伝播によるものであると思われる。ウマナイ⁴が和歌山市方面にまとまってみられるが、これはモムナイの前身である可能性が高い。泉州地方ではモムナイに代わってモモナイが拡がろうとしたが、共通語形マズイが10歳代・20歳代の若年層に浸透しており、今後はモムナイ、モモナイはマズイに置き換えされることになると思われる。

3 佐藤(1995)によると、大阪市内をはじめとして、「近畿域を中心に東は岐阜から西は主に四国に及んでいる」という指摘がある。

4 大阪市内の若年層にもこれと同形の形式がみられる。いまのところ断言はできないが、和歌山方面のウマナイとは直接の関係はないと思われる。かつて用いた旧形式のリバイバルか「うまくない」という共通語形式をそのまま置き換えたものか、この点については別途改めて考えてみたい。

④ 見せてやろうか

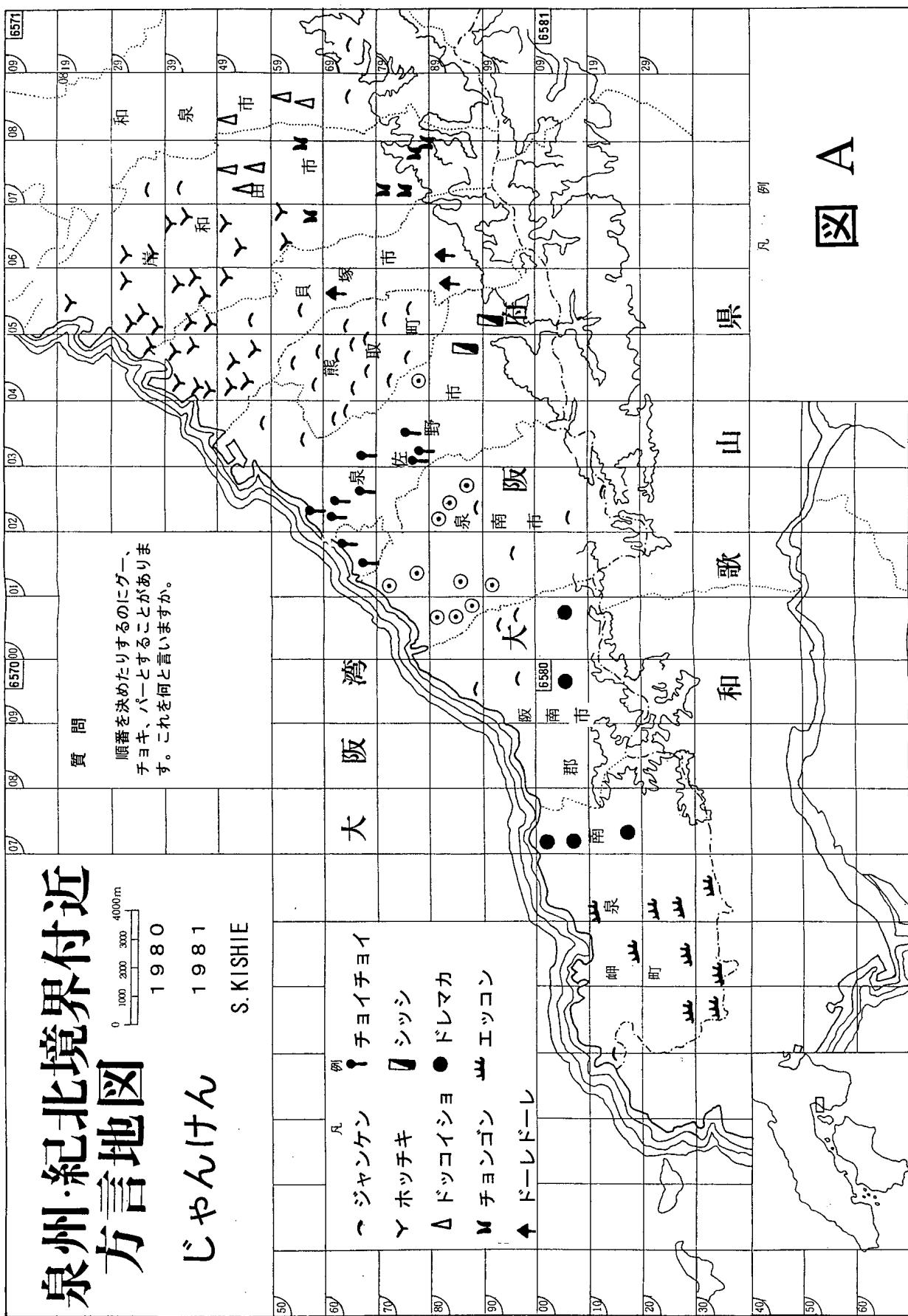
関西中央部の方言ではミセタロカという形式が一般的であるが、大阪府全域には多くのヴァリエーションがみられる。点在するミシタロカや泉南地方を中心に分布するミセチャロカなどである。

図4ではミセタロカが府下ほぼ全域にみられるものの、泉南にはミセチャロカがあるため、当地域ではミセタロカが用いられない。少なくとも言語地図上での結果には大阪市内からミセタロカがまだ侵入していない状態であることが確認できる。表4に目を転ずると、言語地図では府下で点在しているに過ぎなかったミシタロカがミセタロカを凌ぐ勢いで中若年層に使われだしてきており、この形式が府南部に拡がろうとしている状況を知ることができる。言語地図上ではミセタロカとミセチャロカの境界線は和泉市と岸和田市の境界と一致しているが、岸和田市久米田辺りではすでにミシタロカの影響を受けて、ミセチャロカとミシタロカの混交形であるミシチャロカという形式が使われている。かつてミセチャロカの領域であった泉南地方から和歌山県紀北地方全域にも特に若年層においてはミシタロカに変わっており、今後、さらにミセチャロカを脅かしていくものと思われる。

⑤ ジャンケン・ジャンケンのかけ声

大阪では「ジャンケン」のことをインジャンといい、インジャンの方が古いのかジャンケンの方が古いのかよく話題になることがある。この二つの語形の府下での分布は図5によると、インジャンが主として大阪市内から府北部域に限定されるのに対して、ジャンケンは府下ほぼ全域に認められる。この結果だけからではインジャンの方が古いのかジャンケンの方が古いのかを断定することはできない。ただ、これら両語形がともに大阪市内から伝播したものだとすると、ジャンケンの方が府下の各方面に伝播する力が強かったのに対して、インジャンの方は泉南地方に認められないことからジャンケンほどの拡がりを見せなかったといえる。

大阪市から府北部にかけてはジャンケンとインジャンが中心でこれら以外の語形が現れることはなかったのに対し、泉南地方には地域ごとに方言形が認められた。今から20年ほど前に筆者が独自で行った泉南・紀北地方での言語地理学的調査の結果を図Aに示した。この図は図5の泉南地方をさらに拡大したものと考えていただきたい。但し、両者の調査時期にはほぼ15~16年の開きがある。図Aの話者の大半は明治30年代の生まれである



のに対し、図5の話者の大半は大正生まれである。図Aでは和泉市の山間部にドッコイショ、岸和田市旧市街・貝塚旧市街とその近隣にホッチキ、岸和田山間部にチョンゴン、貝塚市山間部にドーレドーレ、泉佐野市旧市街及び近隣地域にチョイトイ、山間部にシッシ、泉南市の旧市街地と近隣地域にジッシン、阪南市付近にドレマカ、岬町にエッコンが分布している。この分布領域は明治から大正にかけての小学校の区域とよく一致する。学区ごとに「じゃんけん」の方言があったことを物語っている。ただ、さらに興味深いのはそれぞれの方言形がまとまって分布し各々テリトリーを作っているが、これらのテリトリーに属さない地域では例外なくジャンケンを使用していた点である。

表5の結果をみると、図Aで認められた学区ごとの方言形はほとんど姿を消している。わずかに70歳代の話者に残るのみである。というよりもかつて各方言形のテリトリーの外にあったジャンケンが猛威を振るい、ほぼ泉南地方全域を覆いつくそうという様相を呈している。表5や表6ではかつて認めることができなかつたインジャンも使われだした。新しく大阪市方面からもたらされたものということができ、少なくとも泉南地方ではジャンケンの方がインジャンより古いといえる。

ジャンケンのかけ声（図6・表6）で注目されるのはジャンケンホイ・インジャンホイなどの～ホイとジャンケンポンなどの～ポンの関係である。図6によると、～ポンがどちらかと言えば、大阪市内およびその近郊にあり、～ホイは大阪市内から離れた地域に分布していることから～ポンが新しく、～ホイが古いとみられる。

明治・大正・昭和に用いられた大阪府方言のジャンケンの方言について触れたが、その様変わりは著しく、殊に泉南地方においてはかつて各地域ごとに存した方言が衰退し、これらに代わる語形としてジャンケンやインジャンが進出した。このあたりにも地域共通語化の一端をみることができるのである。

⑥ 皮ごと

「皮ごと食べる」と言う場合の「ごと」に当たる形式について聞いたものである。図7によると、カワグチが大阪市内から北部方面や東南部方面に拡がっている。一方、堺市のあたりから泉南地方にかけてカワゴシがまとまって分布している。大阪市方面からのカワグチの南下を防いでいるのはカワゴシが健在であることを物語っている。両語形の上をまたがるよう

にカワナリが分布している。大阪市内には認められない形式で大阪市を中心にして周囲的な分布をなしているといえる。カワゴトが府全域に拡がり、共通語化が進んでいるという印象を持つが、表7の結果ではその実態がさらに浮き彫りとなっており、大阪～和歌山間の若年世代ではカワゴトが最も有力な語形となりつつある。カワグチの南下は表7からも南部への侵攻が高石市の富木あたりで食い止められており、上記のような理由でさらに南進できなかったものと思われる。大阪市内ではカワゴトと同様に市内中心に用いられる新しい形式が認められる。カワママ（カワノママ・カワノマンマなど）がそれである。表7の結果からも○印が大阪市内にまとまって認められるところから分布を今後拡大すると思われる。表7ではその状況をすでにみることができ、泉州地方各地の若年層ではカワママなどの形式を使いだしている。

⑦ 状況可能と能力可能

大阪府では可能表現のうち、状況可能と能力可能が使い分けられる。ここでは動詞「着る」の場合の調査結果についてみることにする。

まず、肯定形として、

- (1) 「この服はむりをすればまだ着ることができる」(状況可能)
- (2) 「この子はまだ小さいのに服を一人で着ることができる」(能力可能)

打消（否定）形として、

- (3) 「この服は小さいので、着ることができない」(状況可能否定)
- (4) 「この子はまだ小さいので、服を一人で着ことができない」

(能力可能否定)

について、大阪府のこれらの形式面からみた分布と動態について述べてみたいと思う。まず、状況可能の肯定形からみていくことにしたい。図8からキレルとキラレルが拮抗しており、この分布からは新旧の関係が見えない。いわゆるラ抜きかどうかという問題とも関連がある。大阪市内全区を対象にした方言の動態に関する調査を報告した真田・岸江（1990）によると、「起きることができる」(状況可能肯定) のデータがあるので以下に掲げることにしたい。

着ることができる（大阪市内／男女）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
キレル	90.2	83.0	79.2	61.1	67.4	56.5	41.9
キラレル	8.3	14.3	19.2	27.8	32.6	34.8	51.6

真田・岸江（1990）から引用。

大阪市内での状況可能のオキラレル／オキレルの世代差ははっきりしているが、キレルの使用率がキラレルのそれを上回るのはわずかに70代だけである。恐らくこの結果は図8の結果にも反映しているものと思われ、予想以上にラ抜きの使用が高年世代にまで浸透していることが分かる。表8の結果をみると、大阪～和歌山間でキレルは全世代にあまねく浸透していることが分かる。ただ、岸和田以南の泉南地方ではまだキラレルが中高年層に支持されており、変化の速度が大阪市あたりと比較して遅いように見受けられる。なお、和歌山市ではキラレルから変化したと思われるキヤレルが伝統方言形式として根付いているが、これも徐々にキレルに置き換わりつつある。

次に能力可能のケースをみることにしたい。図9によると、ヨーキルに対してキレル、キラレルが分布しているが、ヨーキルが最も勢力がある。しかし、さきの状況可能との関連でキラレル（状況可能）－ヨーキル（能力可能）といった使い分けが次第に失われつつあることは確実であり、大阪市内を中心にして、キレルに一本化する公算が強いと考えられる。表9でもこの傾向がはっきりしており、大阪市方面から泉南にかけて、特に若年層に能力可能のキレルが拡がっている。

箕面市、和泉市、泉南市にあるヨーキレル。ヨーキラレルは各々ヨーキルとキレル、キラレルが混交したものである。

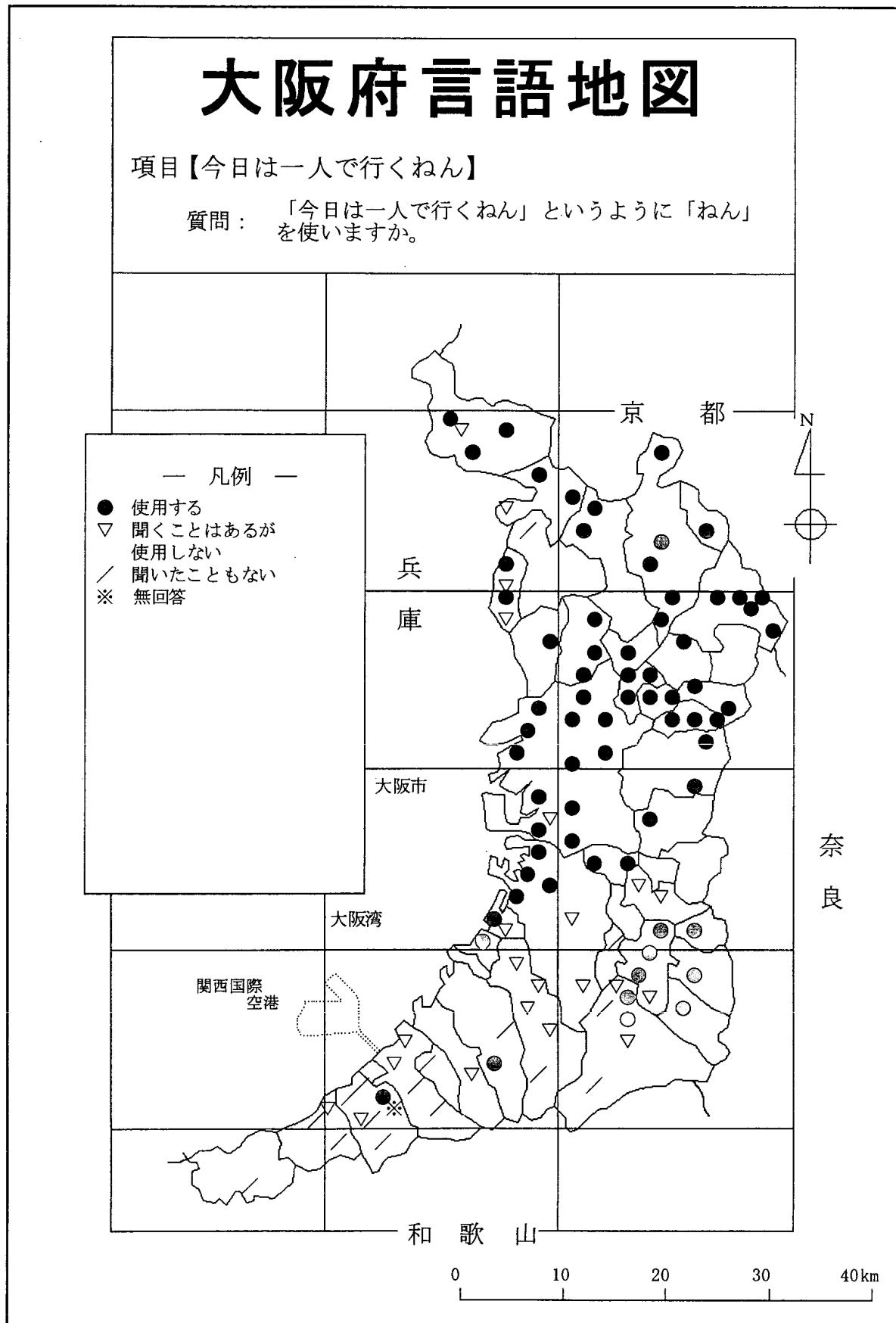
状況可能否定形は大阪府下でキラレヘンが有力であり、府下に広く認められる。但し、一時代前はキラレンが有力形であったことを図10から知ることができる。キラレンの分布はちょうどキラレヘンを取り囲むように分布しており、しかも大阪市内を迂回した形で分布しているためである。大阪市内でもキラレン→キラレヘンの変化が生じたことは確実であると思われる。打消しの助動詞「ヘン」の変異形が多く、河内～泉南地方にかけて多くのヴァリエーションが存在する。この点については既に岸江（1990）で少し触れた。

図11の能力可能否定形ではヨーキンが府全域に分布し、ヨーキヤヒン、

ヨーキーヒン、ヨーキナイなど豊富な変異形が認められる。河内地方では北河内と南河内にヨーキヤヒン、中河内ではヨーキヤインといった形式が認められ、ヨーキヤヒンからヨーキヤインへと変化したものと考えられる。また、泉州地方のヨーキランは一段動詞の五段化の現象との関連で注目したい。ヨーキンなどの形式もキラレヘンに変化しつつあり、状況可能否定形のキラレヘンと合流しつつある。表11の結果でも若年層では着実にキラレヘンに変化してきている。

4. 参考文献

- 前田 勇 (1977) 『大阪弁』 朝日新聞社
金沢裕之 (1991) 『二十世紀初頭大阪口語の実態』 平成二年度科研報告書
佐藤虎男 (1995) 「音便形に見る大阪弁の動態」 徳川宗賢・真田信治編『関西方言の社会言語学的研究』 世界思想社
真田信治・岸江信介 (1990) 「大阪市方言の動向」 平成元年度科研報告書
岸江信介 (1992) 「大阪方言における打消し表現について」 大阪教育大学国語表現研究会『国語表現研究』 第5号
岸江信介 (1997a) 「関西中央部における『ヤンカ』と『ヤン』の動態と分布について」 國學院大学国語研究会『国語研究』 第60号
岸江信介 (1997b) 「大阪府南部に見られる方言の推移」 宮崎国際大学・研究紀要『比較文化』 第3巻
岸江信介 (1997c) 「大阪府におけるハルとヨルの動態と分布」 名古屋・方言研究会『会報』 第14号
岸江信介・中井精一 (1999) 「大阪～和歌山間方言グロットグラム」 摂河泉地域史研究会
岸江信介・中井精一・鳥谷善史 (2000刊行予定) 『大阪府言語地図』 地域語資料5 近畿方言研究会



〔図1〕

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 今日は一人で行くねん 】

質 問：「今日は一人で行くねん」というように「ねん」を使いますか。

調査地点	世 代		7 0 歳代	6 0 歳代	5 0 歳代	4 0 歳代	3 0 歳代	2 0 歳代	1 0 歳代
	01	02	●	●	●	●	●	●	●
01 大阪市天王寺区	●	●	●	●	●	●	●	●	●
02 大阪市阿倍野区	●	●	●	●	●	●	●	●	●
03 大阪市住吉区	●	●	●	●	●	●	●	●	●
04 堺市浅香	●	●	●	●	●	●	●	●	●
05 堺市旧市街	/	▽	▽	●	●	●	●	●	●
06 堺市鳳	●	●	●	●	●	●	●	●	●
07 高石市富木	●	●	▽	●	●	●	●	●	●
08 和泉市信太山	●	●	▽	●	●	●	●	●	●
09 和泉市府中	●	●	●	●	●	●	●	●	●
10 岸和田市久米田	●	●	●	▽	/	/	/	/	/
11 岸和田市下松	▽	▽	●	●	●	●	●	●	●
12 岸和田市土生	/	▽	▽	▽	●	●	●	●	●
13 貝塚市東貝塚	/	▽	●	●	●	●	●	●	●
14 貝塚市石才	▽	▽	●	▽	▽	●	●	●	●
15 熊取町大久保	●	/	●	●	●	●	●	●	●
16 泉佐野市日根野	/	▽	▽	●	●	●	●	●	●
17 泉佐野市長瀧	●	/	▽	/	●	●	▽	●	●
18 泉南市新家	▽	▽	▽	▽	●	●	●	●	●
19 泉南市和泉砂川	▽	▽	▽	▽	▽	●	●	●	●
20 阪南市和泉鳥取	▽	▽	●	▽	●	●	●	●	●
21 阪南市山中渓	▽	▽	▽	●	●	●	/	/	/
22 和歌山市紀伊	▽	●	●	●	●	●	/	/	/
23 和歌山市六十谷	/	/	●	▽	▽	/	/	/	/
24 和歌山市紀伊中之島	/	/	▽	/	▽	▽	/	/	/
25 和歌山市旧市街	▽	/●	/	▽	▽	/	/	/	/
26 和歌山市雜賀崎	/	/	/	/	/	/	▽	/	/

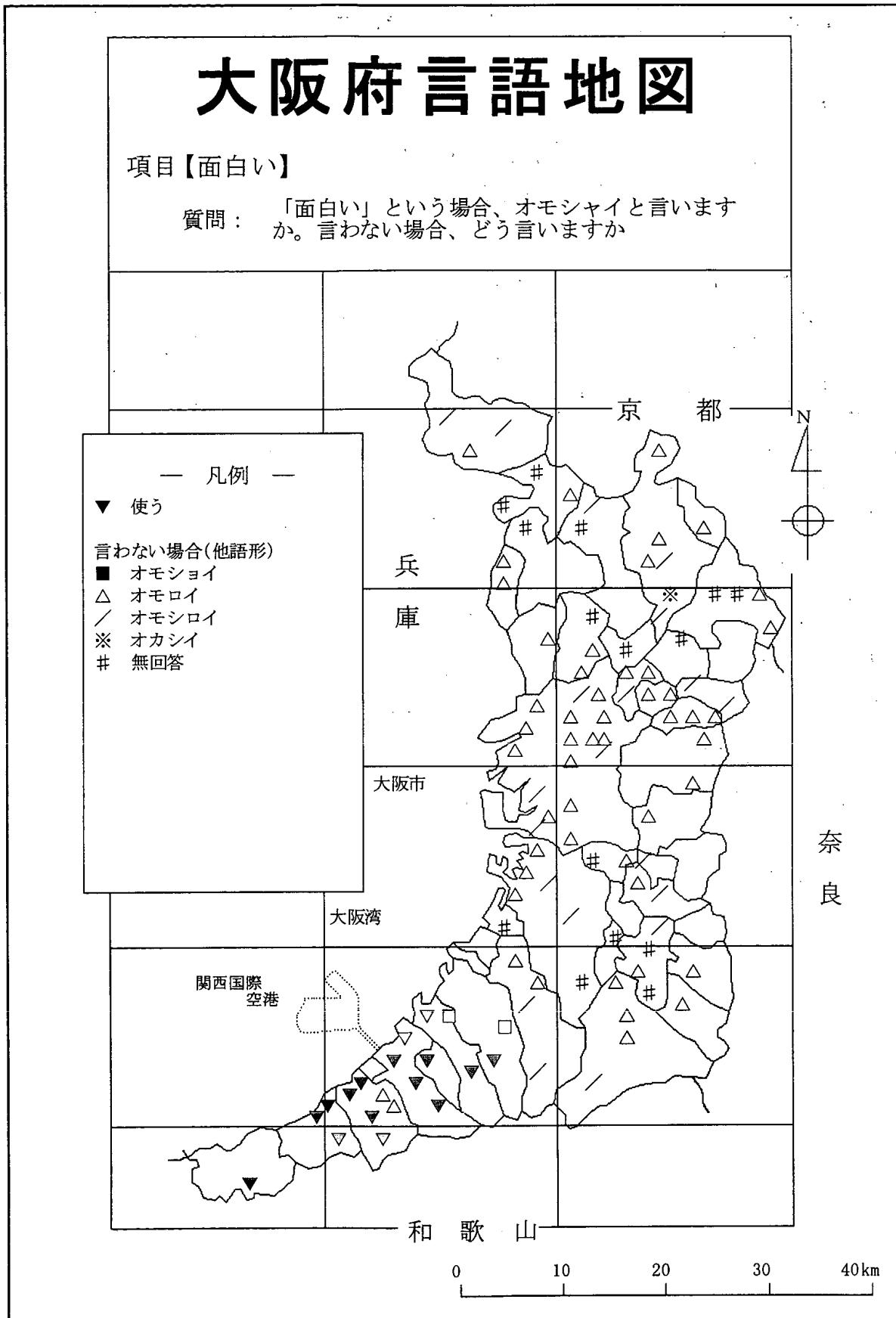
凡 例

● 使用する

▽ 聞くことはあるが
使用しない

/ 聞いたこともない

【表 1】



〔図2〕

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 面白い 】

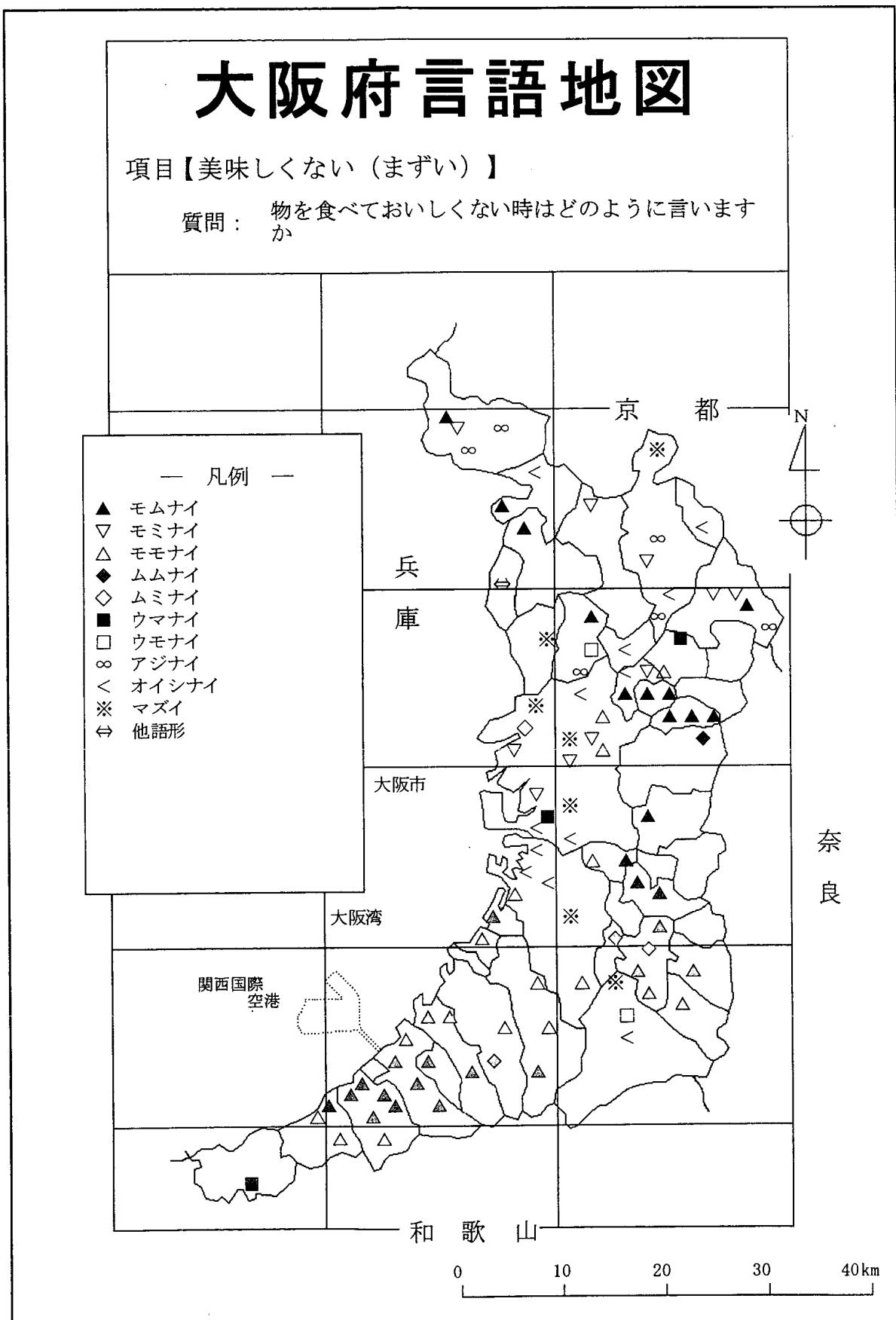
質 問：「面白い」というのを、「オモシャイ」とか「オモショイ」と言うことがありますか。
このように言わない場合、どう言いますか。

調査地点	世代						
	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	10歳代
01 大阪市天王寺区	△	/	△	/	△	△	/
02 大阪市阿倍野区	■	△	△	/	/	△	△
03 大阪市住吉区	△	△	△	/	△	△	/
04 堺市浅香	/	/	△	/	NR	△	/△
05 堺市旧市街	/	△	/△	/	/	/△	/△
06 堺市鳳	△	△	△	/	△	/	△
07 高石市富木	NR	△	/	/	△	/	△
08 和泉市信太山	△	/△	△	△..	/	/	△
09 和泉市府中	..	△	/	■	△	△	/
10 岸和田市久米田	▼△	▼△	▼	■	▼	▼	/△
11 岸和田市下松	■	▼	■	/	■	△	NR
12 岸和田市土生	▼..	▼	▼	▼△	▼	△	/
13 貝塚市東貝塚	▼	▼..	■	△	△	△	△
14 貝塚市石才	▼	▼	▼	▼	■	▼△	△
15 熊取町大久保	▼	▼	▼	▼	▼	■	△
16 泉佐野市日根野	▼	▼	△	▼■	△	△	△
17 泉佐野市長瀧	▼	▼■	▼	▼	▼	△	/
18 泉南市新家	▼	▼	▼	▼△	▼	/	/
19 泉南市和泉砂川	▼	▼	▼	▼	▼	△	/
20 阪南市和泉鳥取	▼	▼	/	/	△	▼	▼
21 阪南市山中渓	▼	▼..	▼	▼△	▼△	▼	▼
22 和歌山市紀伊	▼■	/▼	▼	▼	△	▼■	▼
23 和歌山市六十谷	/	/	▼	/	/	▼	/
24 和歌山市紀伊中之島	▼	▼	▼	/	/	/	▼
25 和歌山市旧市街	▼	▼	▼	▼	▼	▼	△
26 和歌山市雜賀崎	*..	▼..	▼	▼	▼

凡 例

- / オモシロイ
- * オモシライ
- ▼ オモシャイ
- オモショイ
(オモッシュイ)
- △ オモロイ
- .. オッカシ
- NR 無回答

【表 2】



〔図3〕

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 美味しくない（まずい）】

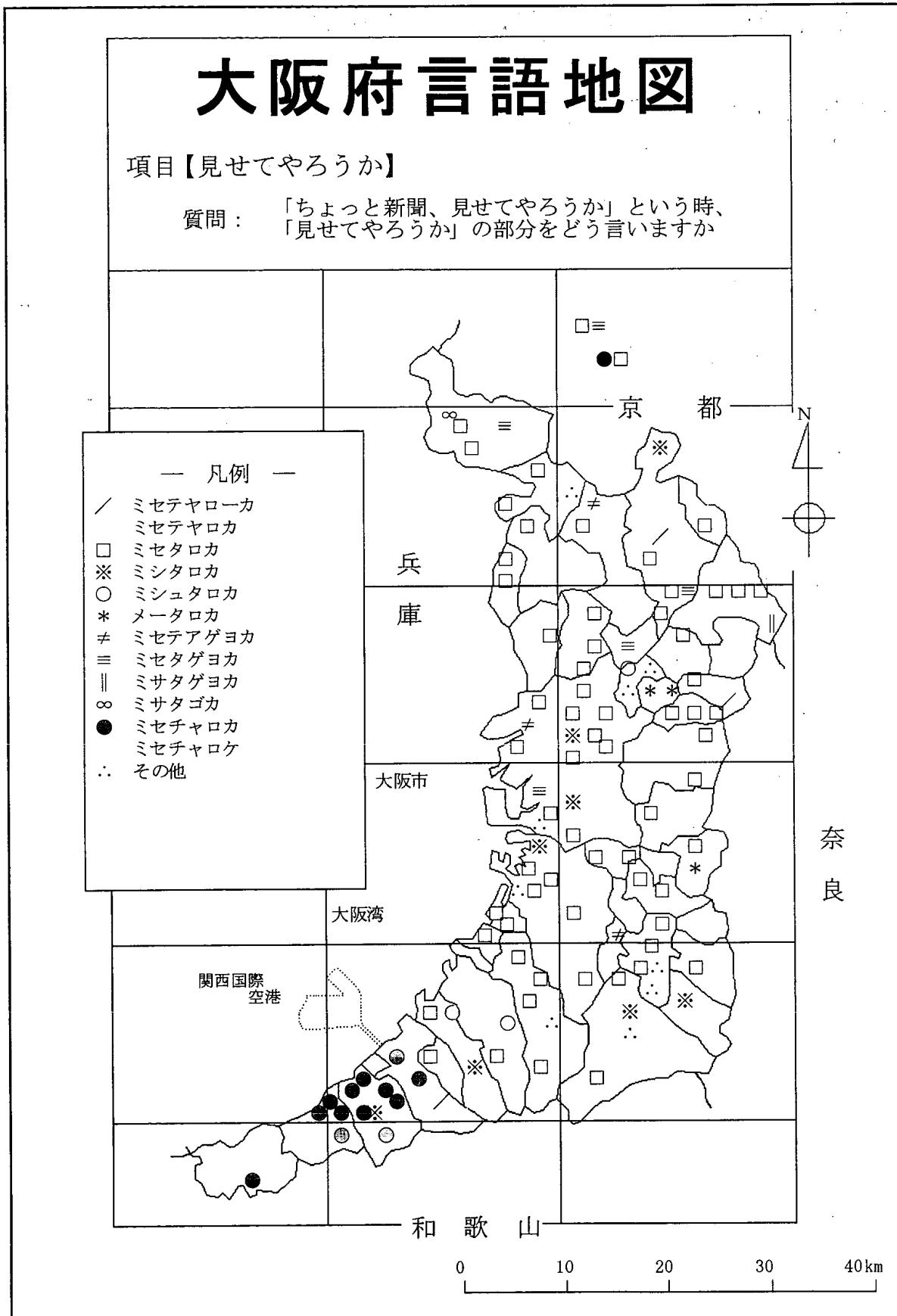
質 問： 美味しい物を食べた時、「うまい」とか「おいしい」と言うと
思いますが、美味しい物を食べた時、どう言いますか。

調査地点	世代	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	10歳代
		歳代						
01 大阪市天王寺区	▽∞	▽	▽	※	■□	※	■	
02 大阪市阿倍野区	▲■	■▽	▽	※	<※	※	※	
03 大阪市住吉区	△	▲	▲	※	▲	*	※	
04 堺市浅香	※	<▲	※	/※	▽	※	※	
05 堺市旧市街	▲	△▽	▲	▲▽	※	▲▽	※	
06 堺市鳳	▲	▲	▽	※	※	※	※	
07 高石市富木	▽	※	※	NR	※	※	※	
08 和泉市信太山	▲△	▲	▲	▲	※	▲△	※	
09 和泉市府中	▲	△	△	△	△	△	※	
10 岸和田市久米田	△	△	△▽	△	△	△	※	
11 岸和田市下松	▲	▲	△	/▲	▲	※	/	
12 岸和田市土生	▲	▲	△	※	▲▽	▲	※	
13 貝塚市東貝塚	▲	※	▲	▲	▲	※	△※	
14 貝塚市石才	▲	▲	▲	△	▲	▲※	▲	
15 熊取町大久保	▲	▲	▲	▲■	※	△	※	
16 泉佐野市日根野	▲<	▲	▲	☆	▲	▲	※	
17 泉佐野市長瀧	△	▲■	△	▲	▲	※	/	
18 泉南市新家	▲	▲	▲	▲	<	▲	▲	
19 泉南市和泉砂川	▲※	△	△	△	▲	■*	※	
20 阪南市和泉鳥取	△	■	■	<	▲■	△※	△※	
21 阪南市山中渓	▲	▲■	▲	■	■	■	※	
22 和歌山市紀伊	▲※	▲	▲	※	■	■	<	
23 和歌山市六十谷	▲■	■	※	<	<	<▲	※	
24 和歌山市紀伊中之島	▲	<△	▲	▲	※	※	※	
25 和歌山市旧市街	■※	<■	※	/※	■	<※	■	
26 和歌山市雜賀崎	▲■	▲■	■	■	■	※	※<	

凡 例

- / オイシクナイ
- < オイシナイ
- ▲ モムナイ
- △ モモナイ
- ▽ モミナイ
- △ ムムナイ
- ウマナイ
- ウモナイ
- ☆ ノモナイ
- ※ マズイ
- * マズー
- ∞ アジナイ
- NR 無回答

【表3】



〔図 4〕

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 見せてやろうか 】

質 問：「ちょっと新聞、見せてやろうか」という時、「見せてやろうか」の部分をどう言いますか。

調査地点	世代						
	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	10歳代
01 大阪市天王寺区	≒	#	≒※	/	≒※	※	※
02 大阪市阿倍野区	≒	≒	≒	+	×	+	※
03 大阪市住吉区	≒	※	※	≒	≒	※	※
04 堺市浅香	×	※	※	※	※
05 堺市旧市街	※	/	※	※	※
06 堺市鳳	..	※	※	※	※	※	※
07 高石市富木	※	※	*	※	≒※	※	※
08 和泉市信太山	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
09 和泉市府中	※	※	※	※	※	※	※
10 岸和田市久米田	△	#△	▲	▲	▲	▲	▲
11 岸和田市下松	..	▲	※	▲	▲	※	※
12 岸和田市土生	▲	▲	▲	▲	※	▲	▲
13 貝塚市東貝塚	▲	▲	▲	/	※	※	
14 貝塚市石才	▲	▲	▲	▲	※	▲	▲
15 熊取町大久保	▲	▲	▲	▲	※	▲	▲
16 泉佐野市日根野	□	▲	※	▲	▲	※	※
17 泉佐野市長瀧	..	▲	▲	▲	▲	※	※
18 泉南市新家	△	▲	▲	▲	▲	▲	▲
19 泉南市和泉砂川	..	▲	▽	▲	▽	※	※
20 阪南市和泉鳥取	▲	※	▲	※	※	▲	▲
21 阪南市山中渓	▲	▲	▲	※	※	▲	▲
22 和歌山市紀伊	≒	▲※	▲	▲	▲★	◇	△
23 和歌山市六十谷	▲	∞	▲	▲	※	▲	▲
24 和歌山市紀伊中之島	▲	◎	▲	※	▲	※	☆
25 和歌山市旧市街	▲	=▲	..	#	▲	☆	▲
26 和歌山市雜賀崎	※≒	≒	..	※	÷	≒	※

凡 例

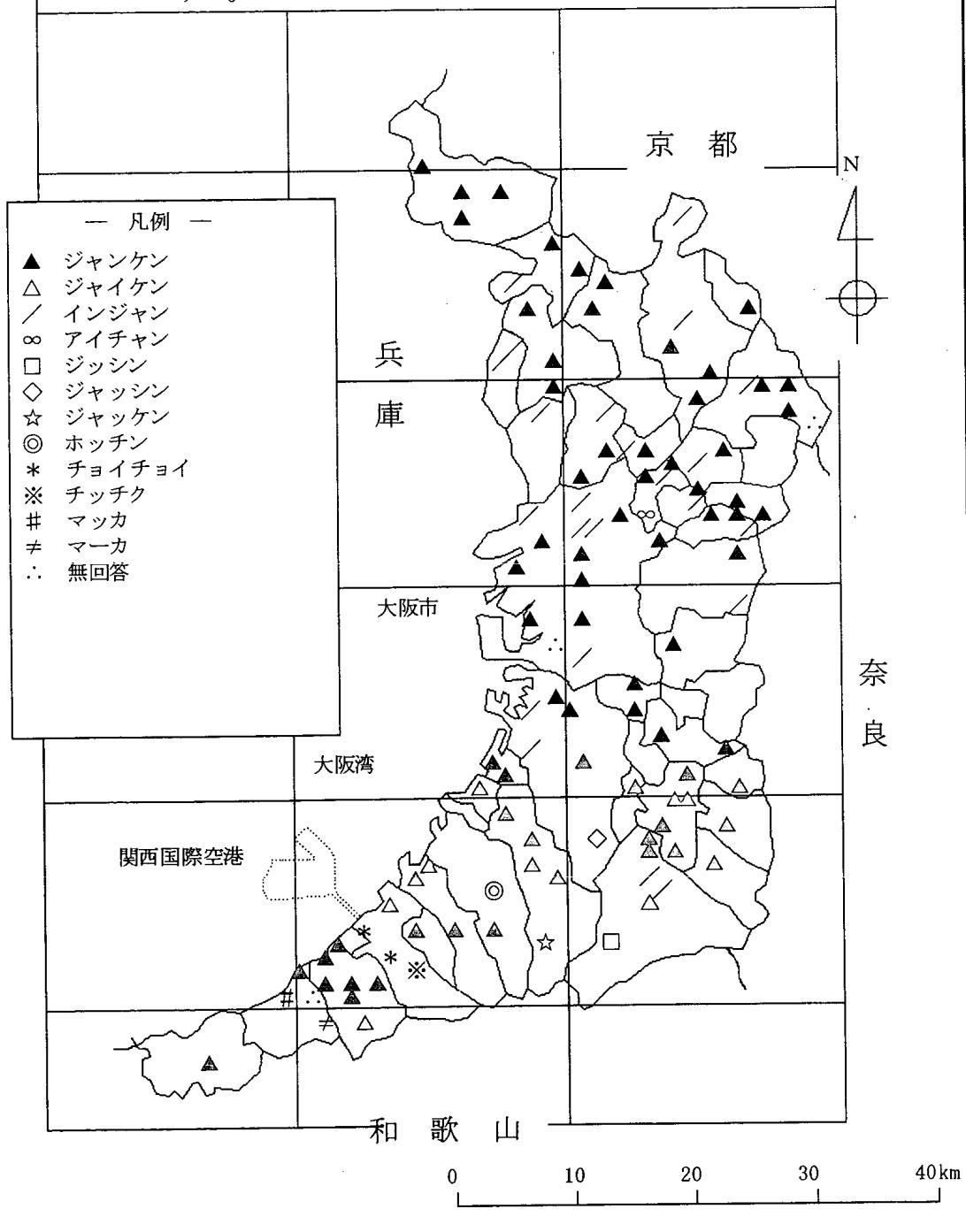
- / ミセテヤローカ
- × ミセテアゲヨカ
- = ミセテヤラ
- * ミセマショカ
- ≒ ミセタロカ
- +
- .. ミセタラー
- # ミセタゲヨーカ
- ☆ ミセチャー
- ★ ミセチャーカ
- ▽ ミセシャロカ
- ▲ ミセチャロカ
- △ ミシチャロカ
- ◇ ミシチャオカ
- ミセチャロケ
- ◎ ミセチャゲヨウカ
- ※ ミシタロカ
- ∞ ミセタゲラヨー
- .. その他

【表 4】

大阪府言語地図

項目【じやんけん】

質問：（手振りでグー、チョキ、パーをする）このようにして、順番を決めたりすることですが、これを何と言いますか。



[図 5]

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 ジャンケン 】

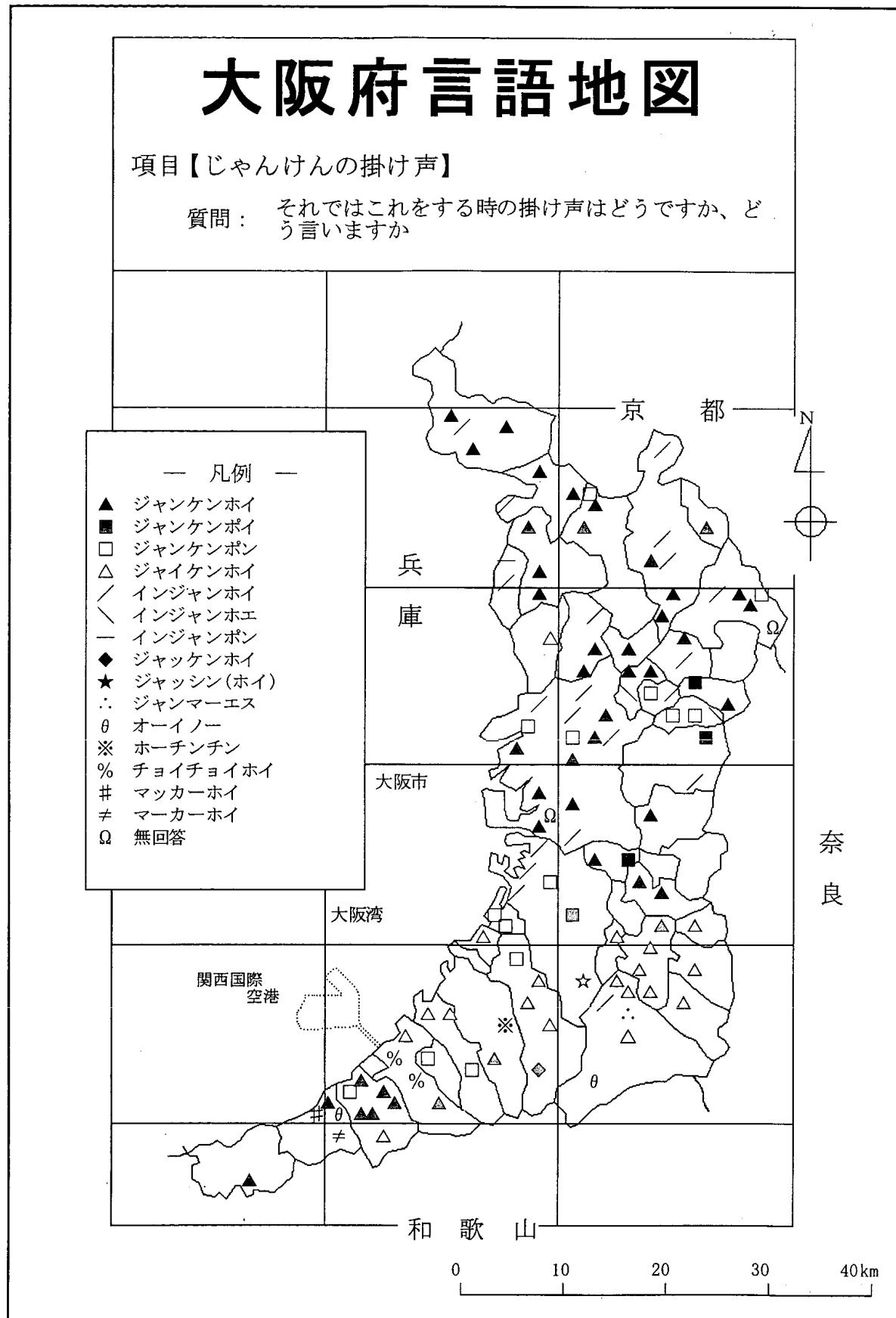
質 問：遊びの順番を決めるのに、グー・チョキ・パーとすることがあります。
これを何と言いますか。

調査地点	世代						
	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	10歳代
01 大阪市天王寺区	▲/	/	/	▲	/	/	/
02 大阪市阿倍野区	▲	▲/	▲	/	/	/△	▲
03 大阪市住吉区	▲	▲	▲	/	▲/	/	/
04 堺市浅香	▲	▲	/	▲	▲	△	△
05 堺市旧市街	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲△
06 堺市鳳	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
07 高石市富木	/	▲	▲	NR	▲	△	▲
08 和泉市信太山	▲	▲	▲	▲	▲/	▲/	▲
09 和泉市府中	▲	▲	▲	△	/	▲	▲
10 岸和田市久米田	▲	☆	▲	▲	/	▲	△
11 岸和田市下松	◎	▲	NR	△	△	▲	▲
12 岸和田市土生	●◎	●	▲	▲	▲	▲	▲
13 貝塚市東貝塚	▲	▲	▲	▲	△	▲	/
14 貝塚市石才	▲	/	▲	▲	▲	▲	▲
15 熊取町大久保	▲	▲○	▲	▲	△	▲	/∞
16 泉佐野市日根野	▲	※	▲/	/	△	▲/	/
17 泉佐野市長瀧	▲	▲*	▽	/	▲	▲	▲
18 泉南市新家	▲	▲	▲	▲	▲	▲/	▲/
19 泉南市和泉砂川	▲	▲	▲	#	▲	▲	▲
20 阪南市和泉鳥取	#	▲	▲	▲	▲	▲	▲
21 阪南市山中渓	▲	▲	▲	×	×	△	▲
22 和歌山市紀伊	▲	▲	▲	▲	▲	▲△	▲
23 和歌山市六十谷	÷	▲	▲	=	▲	▲	△
24 和歌山市紀伊中之島	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
25 和歌山市旧市街	▲	▲+	▲	▲	▲	▲	▲
26 和歌山市雜賀崎	⋮	▲	⋮	⋮	⋮	▲	▲

凡 例

- ▲ ジャンケン
- △ ジャイケン
- ▽ ジャイクン
- / インジャン
- ホイホイ
- ホイチン
- ◎ ホイチンショ一
- ☆ ホッチョク
- × エッケン
- + エッコン
- = エッキンホイ
- ⋮ ヘッコン
- ⋮ ユッキン
- # マツカ
- ※ ショイショイ
- * チョイチョイ
- ∞ ドレマカ
- NR 無回答

【表 5】



〔図 6〕

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 ジャンケンのかけ声 】

質 問：遊びの順番を決めるのに、グー・チョキ・パーとすることがあります。

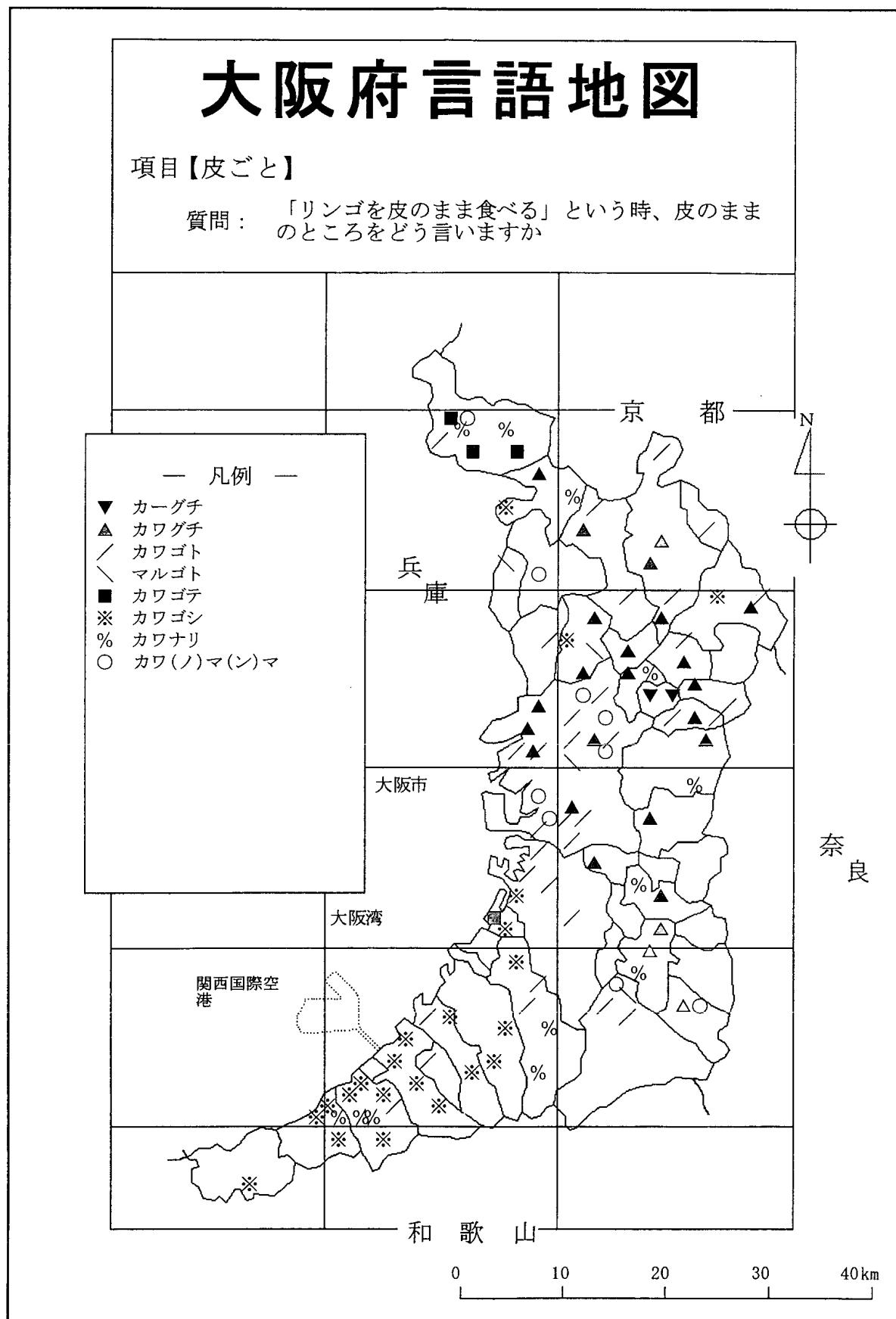
この掛け声を教えて下さい。

調査地点	世 代		7 0 歳代	6 0 歳代	5 0 歳代	4 0 歳代	3 0 歳代	2 0 歳代	1 0 歳代
	調査地点	世 代	7 0 歳代	6 0 歳代	5 0 歳代	4 0 歳代	3 0 歳代	2 0 歳代	1 0 歳代
01 大阪市天王寺区	▲	▲	/	□	/	▲	/		
02 大阪市阿倍野区	▲	/▲	▲	/	/	▽	/		
03 大阪市住吉区	▲	×	×	/	/	▲	/		
04 堺市浅香	□	▲	/	▲	▲	▽	▽		
05 堺市旧市街	▲	□	▲□	△□	▲	▽	▽	☆	
06 堺市鳳	/	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
07 高石市富木	/	▽	□	☆	☆	▽	△		
08 和泉市信太山	□	▲	▲	▲	/	□/	▲		
09 和泉市府中	▲	▲	↔	▽	*	▲	▲		
10 岸和田市久米田	▲	▲	▲	▲	/	▲	□		
11 岸和田市下松	※	/	NR	▽	▽	□	▽		
12 岸和田市土生	▲※	□	+	▲☆	▲	×	▲		
13 貝塚市東貝塚	▲	□/	▲	▲	▲	▲	-		
14 貝塚市石才	▲	/	▲	▲	▲	▲	▲		
15 熊取町大久保	▲☆	□	▲/	▲/	▲	▲	▲	∞	
16 泉佐野市日根野	▲	□	□	×	▲	▲/	/		
17 泉佐野市長瀧	□	□÷	▲	/	□	□	▽		
18 泉南市新家	◆	/	▲□	/	□	/	/		
19 泉南市和泉砂川	□	□	▲	#	▲	□	=		
20 阪南市和泉鳥取	#	NR	□	□	+	▲	▲		
21 阪南市山中渓	□	▲☆	▲	●	●	▲	▲		
22 和歌山市紀伊	▲≡	/	☆	▲	□	◎	◎		
23 和歌山市六十谷	◎○	▲	□	◎	▲	■	◊		
24 和歌山市紀伊中之島	▲	□	⊥	▲■	□	□	□		
25 和歌山市旧市街	◎	□○	□	□	□	□	□		
26 和歌山市雜賀崎	∧	∧	∧	∧	∧	□	▲		

凡 例

- ▲ ジャンケンホイ
- ▽ ジャンケンデホイ
- △ ジャンケイホイ
- ◆ ジャンケンホンホラホイ
- ジャンケンポン
- ジャンケンポイ
- ☆ ジャンリンポイ
- / インジャンホイ
- × インジャンデホイ
- + インジャンポイ
- = インジャンピ
- インシャン
- ◎ エッキン類
(エッキンホイ)
(エッキンサイ)
- エッコンサイ類
(エッコンポン)
- エッケンホイ
- ◊ エッショントピ
- ※ ホイチソ類 (ホイチソレ)
- # マツカソ類 (マツカホイ)
- * ドッコイシヨ
- ∞ ドレマカデホイ
- ↔ ゲンケンホイ
- ÷ チヨイシヨイホイ
- ∧ ヘッコンシヨ
- ≡ イチニノサン
- ⊥ セーノ

【表 6】



(図 7)

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 皮ごと 】

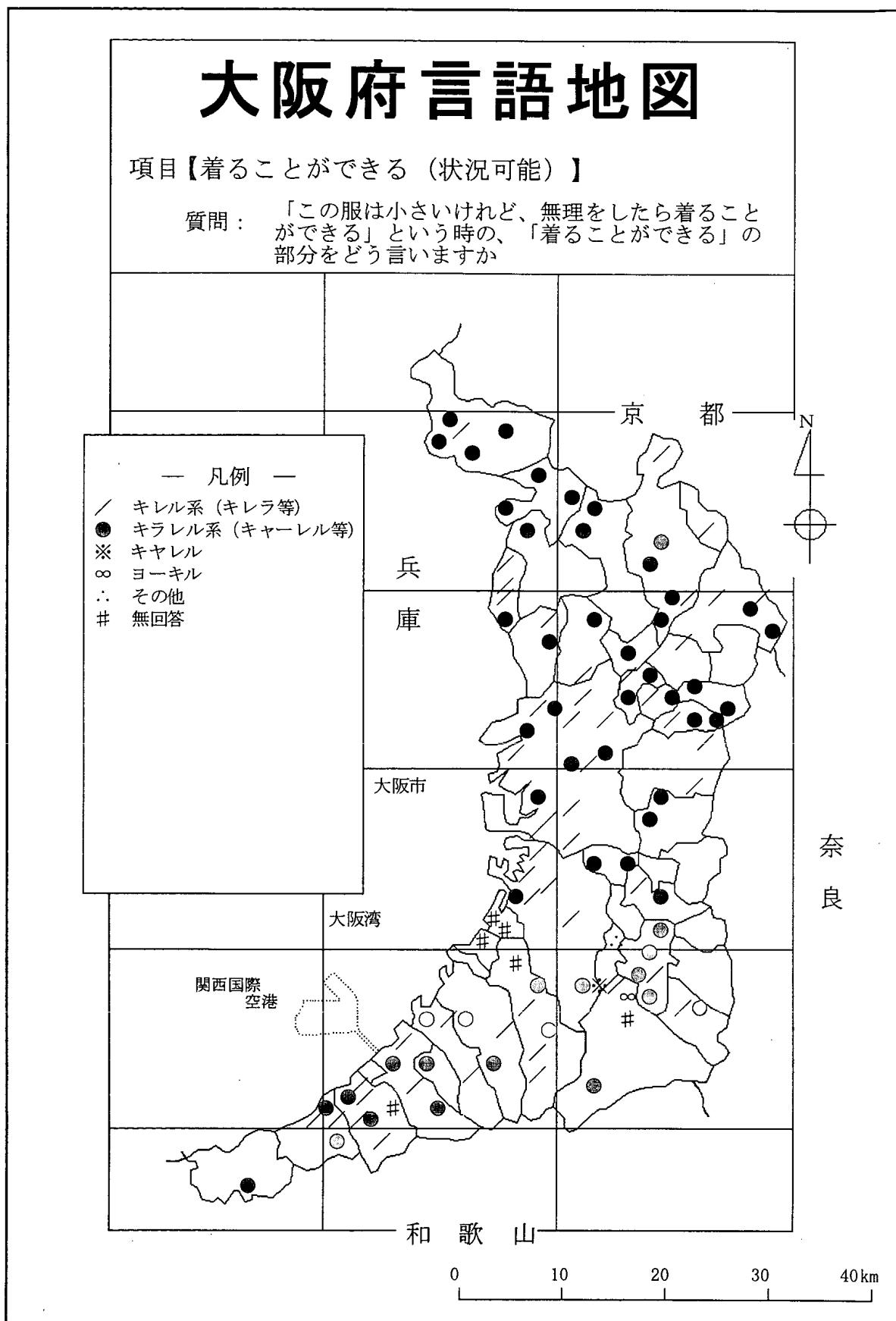
質 問：「林檎を、皮をむかずに、皮ごと食べる」と言う場合、
 「ごと」のところをどう言いますか。

調査地点	世代 70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	10歳代
01 大阪市天王寺区	▲	▲	○	/	○	○	/
02 大阪市阿倍野区	▲	▲	/	/	/	/	○
03 大阪市住吉区	▲	▲	▲	▲	▲	/	/
04 堺市浅香	○	○	○	○	▲	○	○
05 堺市旧市街	/	/▲	▲○	▲○	/	/	/
06 堺市鳳	※	▲	▲	/	/	/	/
07 高石市富木	▲	▲	/	/	/○	※	/
08 和泉市信太山	※	*	*	※	○	※	/
09 和泉市府中	/	※	※	※	※	※	※
10 岸和田市久米田	※	※	*	※	※	/	○
11 岸和田市下松	/※	※	○	/	※	/	/
12 岸和田市土生	※	※	※	※	※	/※	○
13 貝塚市東貝塚	※	※	※	/	※	/	※
14 貝塚市石才	※	※	※	※	※	/※	※
15 熊取町大久保	※	※	※	※	/	※	/
16 泉佐野市日根野	※	※	/	※	※	※	/
17 泉佐野市長滝	※	※	/	/	※	/	/
18 泉南市新家	※○	※	※	※	※	※○	※○
19 泉南市和泉砂川	※	※	※	※	※	※	/
20 阪南市和泉鳥取	※	○	/	/	/	/	/
21 阪南市山中渓	※	※	※	※	※	※	/
22 和歌山市紀伊	※	※	/※	/	/	/	/
23 和歌山市六十谷	※	※	※	※○	/	※	/
24 和歌山市紀伊中之島	/	/	/	/	/	/	/○
25 和歌山市旧市街	/※	/	/	/	○	○	NR
26 和歌山市雜賀崎	※%	※	※	※	※	/	/

凡 例

- / ゴト類
(ゴット)
- ※ ゴシ
- * グシ
- ▲ グチ
- ママ
(皮ママ・皮ノママ)
- % ナリ
- NR 無回答

【表 7】



〔図 8〕

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 着ることができる（状況可能）】

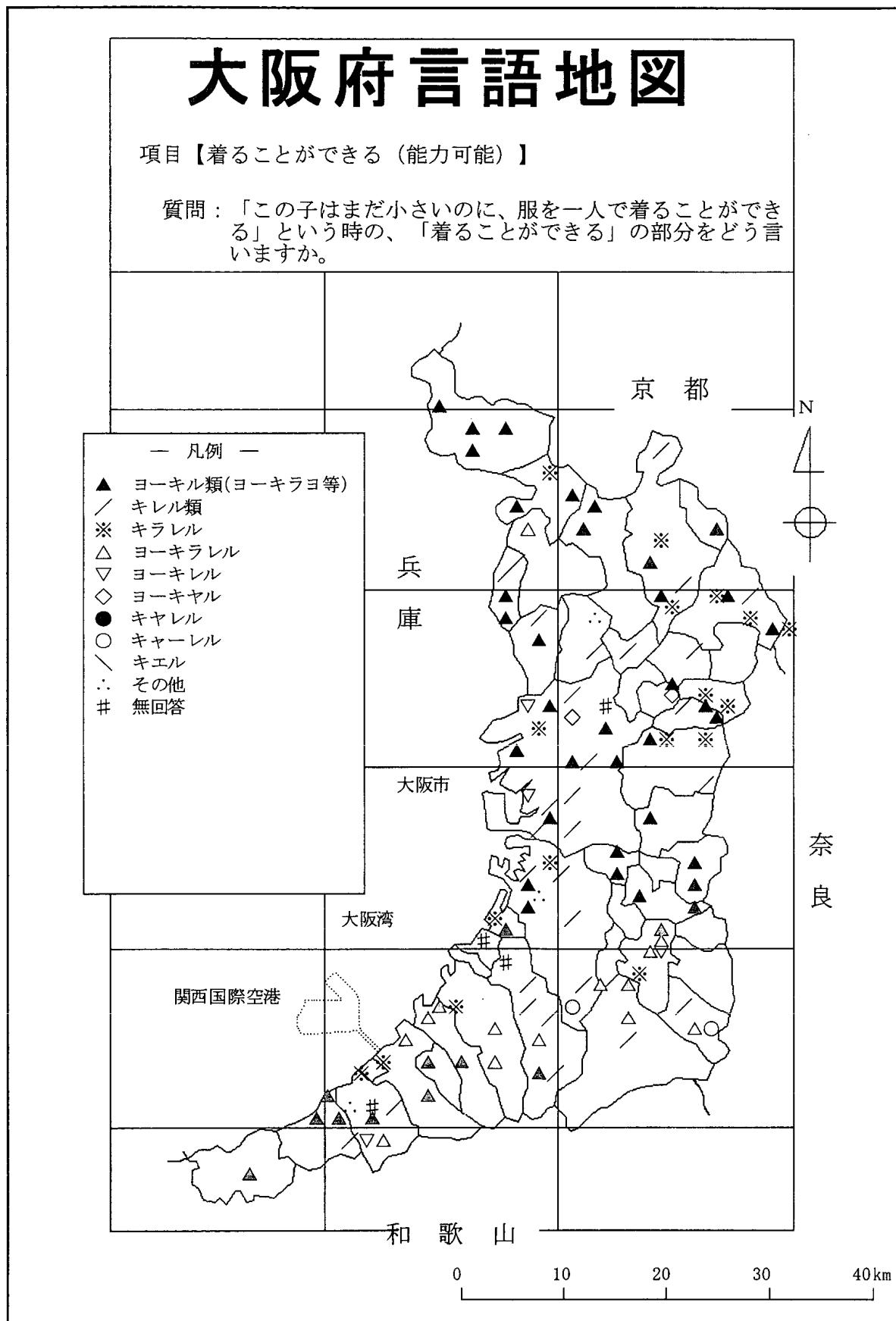
質 問： 「この服はまだ無理をしたら着ることができる」という場合、
 「着ることができる」の部分をどう言いますか。

調査地点	世代	70 歳代	60 歳代	50 歳代	40 歳代	30 歳代	20 歳代	10 歳代
		70 歳代	60 歳代	50 歳代	40 歳代	30 歳代	20 歳代	10 歳代
01 大阪市天王寺区	●	/	/●	/	/●	/	/	
02 大阪市阿倍野区	/	/	/	/	/	●	/	
03 大阪市住吉区	●	●	/	●	/	/	/	
04 堺市浅香	●	/	●	/	/	/	/	
05 堺市旧市街	/	●	/	/	/●	/	/	
06 堺市鳳	/	/	/	/	●	/	/	
07 高石市富木	●	/	/	/	/	/	/	
08 和泉市信太山	/●	●	●	/	/●	/●	/	
09 和泉市府中	/	/	/	/	/	/	●	
10 岸和田市久米田	●	/●	/●	※	※	/	●	
11 岸和田市下松	●	/	●	●	●	/	/	
12 岸和田市土生	/●	/	●	/●	/●	●	/	
13 貝塚市東貝塚	●	●	●	/	●	/	/	
14 貝塚市石才	/	/	●	/	●	/	/	
15 熊取町大久保	/●	●	/	/	/	/	/	
16 泉佐野市日根野	●	●	/	/	●	●	●	
17 泉佐野市長滝	/	/..	/	※	●	/	/	
18 泉南市新家	●	●	●	●	/	●	●	
19 泉南市和泉砂川	●	●	●	/	●	/	●	
20 阪南市和泉鳥取	/	/	●	/	●	●	●	
21 阪南市山中渓	●	/	/	●	●	/	/	
22 和歌山市紀伊	/	※	/	※	※	/	※	
23 和歌山市六十谷	※	※	/	※	※	/	/	
24 和歌山市紀伊中之島	※	/※	●	/	※	/	/	
25 和歌山市旧市街	●	●※	/	/	/	●	/	
26 和歌山市雜賀崎	●※	●	※	※	●	/	●※	

凡 例

- / キレル
- キラレル
- ※ キヤレル
- .. その他

【表 8】



〔図9〕

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 着ることができる（能力可能）】

質 問：「この子はまだ小さいのに、まだ服を一人で着ることができる」

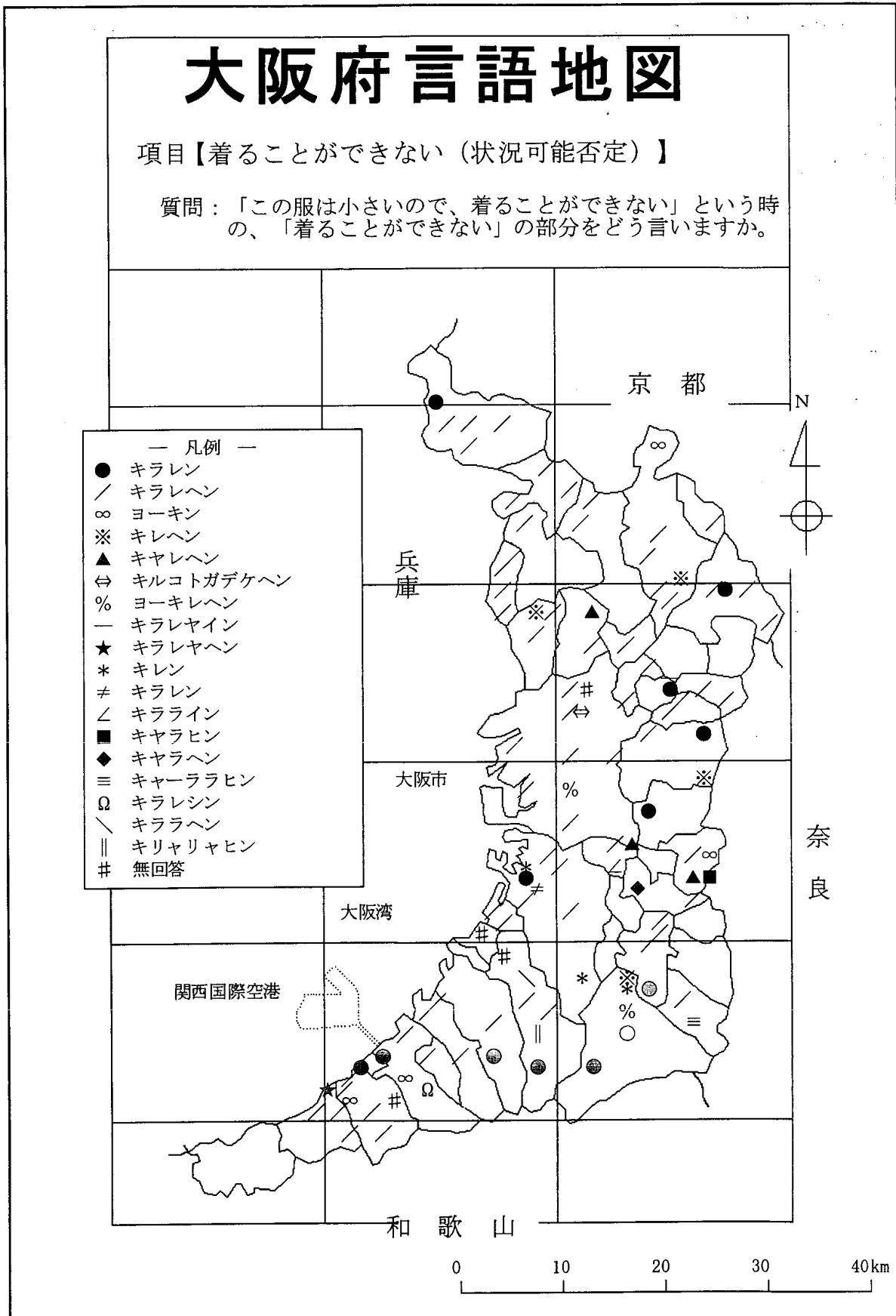
という場合、「着ることができる」の部分をどう言いますか。

調査地點	世 代	7 0	6 0	5 0	4 0	3 0	2 0	1 0
		歳代						
01 大阪市天王寺区	※▲	※	/▲	/	/	/	/	▲
02 大阪市阿倍野区	/	▲	※	▽	※	▲	/	
03 大阪市住吉区	▲	/▲	/▲	▲	▲	▲	▲	
04 堺市浅香	※	/	※	/	※	▲	▲	
05 堺市旧市街	※	※▲	/▲	※▽	/	/	/	※
06 堺市鳳	※	/	/	/	▲	/	▲	
07 高石市富木	●	/	..	/	/▽	/	/	
08 和泉市信太山	※▲	▲	※▲	/	/	/▲	/▲	
09 和泉市府中	/	▲	/	/	/	/	/	
10 岸和田市久米田	▲	▲	※▲	/	/●	/	/※	
11 岸和田市下松	▲	※	▲	▲	*	▲	..	
12 岸和田市土生	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
13 貝塚市東貝塚	▲	▲	※	▲	※	▲	▲	
14 貝塚市石才	▲	▲	▲	/	▲	/▲	/	
15 熊取町大久保	▲	▲	▲	▲	/	▲	☆	
16 泉佐野市日根野	▲	▲	▲	※	▲	▲	▲	
17 泉佐野市長滝	▲	▲▽	※	●	/	/	/	
18 泉南市新家	▲	▲	▲	▲	/	▲	▲	
19 泉南市和泉砂川	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
20 阪南市和泉鳥取	▲	/	※	/	▲	/	/	
21 阪南市山中渓	▲	▲	▲	/	/	▲	▲	
22 和歌山市紀伊	●▲	●	※	/	●	●	●	
23 和歌山市六十谷	▲	▲	/	●	●	▲	/	
24 和歌山市紀伊中之島	●	●▲	/	/	/	/	/	
25 和歌山市旧市街	※	/▲	▲	※▲	▲	▲	▲	
26 和歌山市雜賀崎	/▲	▲	▲	▲	▲	▲	/	

凡 例

- / キレル
- ※ キラレル
- キヤレル
- ☆ キリヨル
- ▲ ヨーキル
- ▽ ヨーキレル
- * キラレラ
(キヤレラ)
- .. キルコトガデキル

【表 9】



〔図10〕

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 着ることができない（状況不可能）】

質 問：「この服は小さいので、着ることができない」という場合、

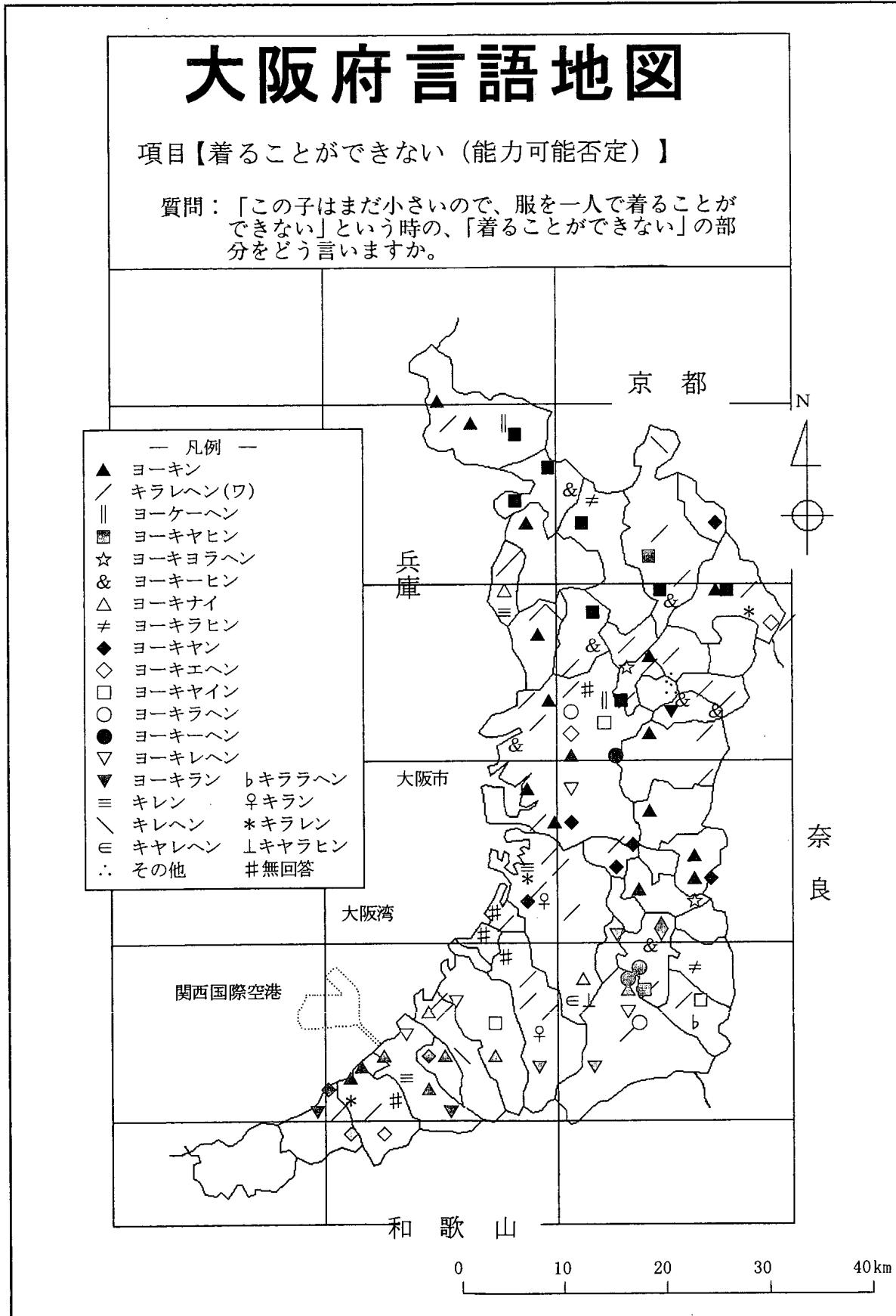
「着ことができない」の部分をどう言いますか。

	世 代 調査地点	70 歳代	60 歳代	50 歳代	40 歳代	30 歳代	20 歳代	10 歳代
01	大阪市天王寺区	/	/	/	¥	/	/	/
02	大阪市阿倍野区	/	/	/	/	¥	/	/
03	大阪市住吉区	/	/	/	/	/	/	/
04	堺市浅香	/	¥	/	/	/	/	/
05	堺市旧市街	/	/≡	※	/	/	/	※
06	堺市鳳	/	/	/	※	..	※	¥
07	高石市富木	=	※	¥	/	※¥	/	/
08	和泉市信太山	≡	/	/	/	/	/	/
09	和泉市府中	≡	∞	#	/	/	/	/
10	岸和田市久米田	×	/	+	△	/	/	/
11	岸和田市下松	/	/	/	/	/	/	/
12	岸和田市土生	/	*	/	※	/	/	=
13	貝塚市東貝塚	/		/	/	/	/	/
14	貝塚市石才	/	/	/	/	※	/	/
15	熊取町大久保	/	*	/	/	/	/	≡
16	泉佐野市日根野	/	/	※	/	/	/	/
17	泉佐野市長瀧	/※	/≡	..	/	/	/	..
18	泉南市新家	/	/	/	/※	/	≡	≡
19	泉南市和泉砂川	≡	≡	/	※	/	/	
20	阪南市和泉鳥取	/	/	/	※	※	/	/
21	阪南市山中渓	/	/	/	/■	■	/	/
22	和歌山市紀伊	/	●	/	/	■	●	●
23	和歌山市六十谷	●	●	/	/	/	■	/
24	和歌山市紀伊中之島	■	/●	▲	/	/▲	÷	■
25	和歌山市旧市街	/	■	■	/	■	■	■
26	和歌山市雜賀崎	▲☆	≡=	●	☆	◇	※	■

凡 例

- || キラレナイ
- / キラレヘン
- ▲ キヤレヘン
- ※ キレヘン
- = キラレヤヘン
- ≡ キラレン
- △ キヤレン
- ¥ キレナイ
- * キレン
- ÷ キレレン
- # キレラヒン
- × キラレラヒン
- +
- キレヤン
- キヤレヤン
- ◇ キヤレヘン
- ☆ キヤレヤセン
- ∞ ヨーキン
- .. その他

【表10】



〔図11〕

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 着ることができない（能力不可能）】

質 問：「この子はまだ小さいので、服を一人で着ることができない」

という時の、「着ことができない」の部分をどう言いますか。

調査地点	世 代						
	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	10歳代
01 大阪市天王寺区	▲/	/	▲	+	▲	/	■
02 大阪市阿倍野区	■	/	▲/	▲	/★	/	/
03 大阪市住吉区	/	+	◆	▲	◆	▲■	▲
04 堺市浅香	/	▲	/	▲/	■	\	/
05 堺市旧市街	/	◇	/▼	/	/	/	/
06 堺市鳳	▲	/	/	\	/	\	/
07 高石市富木	/	\	+	▲	▼	/	△
08 和泉市信太山	/▼	▼	▼	▼	¶	▲	▼
09 和泉市府中	▲▼	/	/▼	▼	▼	/	/
10 岸和田市久米田	×▼	/▼	/▼	#	=	/	/
11 岸和田市下松	▼	▲▼	▲/	/▼	▽	▲/	/
12 岸和田市土生	▲▼	▼	▼	▼*	▼	▼	/
13 貝塚市東貝塚	▲	△	/	△	▼	△	●
14 貝塚市石才	▼	▼	▲	/	=	/◆	/
15 熊取町大久保	▼	▼	▼	▼	▼	】	¶
16 泉佐野市日根野	▲▼	▲	▲▼	¶	▼	●▲	▲
17 泉佐野市長瀧	▼	¶	/	=	+	/	/
18 泉南市新家	▲	▲▼	▲▼	▲=	▲/	/	/
19 泉南市和泉砂川	▲	▲	◆	▲	◆	/	◆
20 阪南市和泉鳥取	▲▼	◆	★	◆	▼	/	/
21 阪南市山中溪	/◆	◆	/	◆▼	◆▼	◆	◆
22 和歌山市紀伊	/	/	◎	◆	◆	◎	○
23 和歌山市六十谷	◆	◆	=	◆	/<	◆◎	/
24 和歌山市紀伊中之島	◆◎	◇	◆	/	◆	▲	○
25 和歌山市旧市街	▼	◆	◆▼	○	◆○	◆	◆○
26 和歌山市雜賀崎	▲◆	◆◎	◆∞	=	◆	=	○

凡 例

- ＼ キレヘン
- / キラレヘン
- × キラライン
- < キランヘン
- ∞ キラレヤセン
- # キヤレン
- キレヤン
- ◎ キヤレヤン
- ≡ キヤレヘン
- * キラレン
- + キレナイ
- ⋮ ヨーキレン
- ★ ヨーキラレナイ
- ¶ ヨーキーピン
- ◆ ヨーキヤン
- ヨーキヤヘン
- △ ヨーキーヘン
- ▲ ヨーキン
- ◇ ヨーキエヘン
- ▽ ヨーキレヘン
- ▼ ヨーキラン
- = ヨーキラレヘン
- ヨーキラヘン
-] ヨーキレヘン

【表11】